

TUFS 歴史・地域研究セミナー

第5回 Workshop for History and Area Studies

報告：松田明（本学博士前期課程2年）

想像される身体

一日独における人類学と

人種主義、植民地、移民と優生学

コメント：伊東剛史、春名展生（TUFS）

日時：2019年3月4日（月） 17：30～（1時間程度を予定）

場所：海外事情研究所 会議室（研究講義棟 427号室）

主催：海外事情研究所 ほか

形質人類学は人間の身体を標本資料とした経験的研究に基づき、人種や民族といった各集団の身体には生物学的な差異と序列があるという観念に実体を与えた。本発表では先ずドイツ語圏において行われた人類学研究が世界各地から、ときに墓地の盗掘や虐殺行為により標本を収集し、人種観念を「実証的」に構築した過程を、さらにドイツから人類学を輸入した日本において、欧米の差別的な人種観念に対する学術的反論とアジアにおける植民地の身体に対する差別的言説とが再生産されるプロセスを概観する。そしてそこで構築された身体観念を手がかりとして、植民地主義や優生思想、移民と人口移動の歴史を再検証することを目指したい。

